

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【鈴谷小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方」「書くこと」 算数「数と計算」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。読書の質や量を学力につなげたい。	⇒ 漢字の学習時には、漢字の意味を理解し、自分で考えた文や辞書を活用した言葉練習をする。【毎時間】 ・語彙力や表現力を高めるため6年間使用する読書ファイルを作成し、100選リスト等を活用した読書活動を行う。【週1時間以上】 ・ドリルやドリルパークの個別課題等を活用し、一人ひとりの課題に合った学習を進められるよう指導する。【単元に1回以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「書くこと」 算数「図形」「データの活用」 <指導上の課題> 個に応じた指導を充実させていく必要がある。自分の言葉で表現する活動を十分に確保したい。	⇒ 教科を問わず、自分の考えを表現する活動を充実させる。相手や目的意識を念頭に置きながら、ワークシートに書く、友達と意見交流する、学級で発表する等の時間を確保する。【毎時間】 ・様々なデータに触れる機会を増やし、データを読み取る際の視点を明確にし、自分の言葉で表現する等、授業の工夫改善を図る。【データを扱う単元毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	児童生徒の 学力の向上
思考・判断・表現	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、算数、理科全ての教科において、全国平均値を上回る正答率で、よくできている。語彙や漢字の理解が定着しているが、同音異義語の使い分けに課題が見られた。引き続き、漢字の意味を理解し、文脈に応じた語彙指導を強化する。
思考・判断・表現	算数では、はかりの目盛りの読み方や角の大きさの理解に課題が見られた。教科にとらわれず、体験的な学習の中で積み重ねを図る。 国語では、話の内容を整理する力が育ってきている。一方で、聞く目的に応じた情報の把握に課題が見られた。対話活動を通じて聞く力の強化を図る。 理科では、基本的な自然現象の理解が進んでいる。一方で、水の性質を根拠に予想・表現する力に課題が見られた。実験や協働的な学びの活動を工夫し、充実させていく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	・新出漢字を学習する際、漢字の意味をとりえ、その漢字を用いた言葉や文を考え、練習し、定着を図った。 ・全学年、読書ファイルを作成し、100選リストを活用した読書活動が進められている。また、図書ボランティアの読み聞かせや図書委員会による読書推進活動を行い、語彙力や表現力の育成を図っている。 ・個に応じた基礎学力の定着のため、ドリル学習やPCを活用した個別ドリル学習を実施している。	変更なし
思考・判断・表現	A	・各教科での活動を通じて、根拠をもって自分の考えを表現する力が育ってきている。特に、話し合い活動や意見文の作成、総合的な学習の時間等、探求的な学習での発表等において、自分の意図を明確に伝えようとする様子が見られた。 ・さらに、データを読み取る視点を意識しながら、自分の言葉で表現できるよう、PCの活用や協働的な学習等、授業の工夫改善を図っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)